

かんとうじんせんごよう 関東人選御用

田安家・一橋家は八代將軍主宗により、清水家は九代將軍家重により、それぞれ創設されたもので、これらを合わせて御三卿と称し、將軍家に最も近い家柄として御三家(尾張・紀伊・水戸)に準じ、將軍血統を保持することがその主たる役割であった。当時の一橋家の当主慶喜は、水戸藩主徳川斉昭の七男で、有力な將軍候補として、早くからその英明ぶりが期待されていました。この年元治元年(一八六四)三月、慶喜は、禁裏守衛總督に任じられます。新規召し抱えとなった栄一と喜作は、奥口藩といつ最下層の身分と御用談所調方下役出役という仕事を与えられます。御用談所といつのは朝廷・幕府・諸藩との折衝を司ることです。栄一は篤太夫と、喜作は成二郎と、それぞれ名前も改ま



▲中瀬付近で落命した天狗党隊士を弔う碑(血洗島地内)

り、まずは長屋暮らしの自炊生活でありましたが、侍としての第一歩を踏み出すことになったのです。栄一には、早速大坂出張の命が下ります。薩摩藩の動静を探るのが主な目的でした。これを無事に済ますと、五月、新たな人材の登用を自ら提言し、関東人選御用を命ぜられ、喜作とともに関東に向かいます。入牢中の長七郎を救出したいという考えもありました。海保塾や千葉道場の旧友の多くが水戸藩の尊攘激派である天狗党に参加し、当てが外れた面もありましたが、最終的には

五十名を超える人数を集めました。応募者の中には、一族の武沢市五郎や須永於菟之輔も含まれていました。

さて、この御用の際中の七月下旬、平岡四郎暗殺の報に接し、栄一と喜作は愕然とします。平岡は、幕臣岡本近江守の四男に生まれ、のち平岡家に養子に入り、水戸藩の藤田東湖らの推挙により慶喜の側近となったもので、「天下の権は平岡にあり」と言われたほど非凡な才能の持ち主として知られていました。栄一と喜作がどんなに落胆したか、目に見えるようになります。

帰路、栄一は、妻沿て父に、宿根で妻子に、それぞれひそかに会おうと計画しました。(文:新井慎二)

登用を提言した結果、栄一たちは命を受け、関東地方に散在する一橋家の領地を巡り、人材確保に努めました。

【慶喜と一橋家】
御三家のうち、水戸家については、將軍を補佐する家として創設されていたため、將軍にはなれない家系でした。そのため、水戸家出身の慶喜は、一度一橋家に養子に行く形を採りました。

物語の手引き

【禁裏守衛總督】

禁裏(京都御所)を警護するために、幕府によって新たに設置された役職

【関東人選御用】

慶喜が禁裏守衛總督になったことにより、御所や京都の治安警備を行う新たな人材が必要だと栄一は考えました。人材

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

深谷のおかみさんパフォー

深谷駅の改札を抜ける時すべ右手に、傘立てが置かれています。「自由にお使いください」と書かれた張り紙と黄色い傘が目を引きまします。雨にぬれて転ばないようにつと、女性ならではの視点で始まった「黄色い傘運動」は、「深谷おかみさん会」により行われています。

全国各地に存在するおかみさん会は、一般的に、商店街のおかみさんにより組織されていますが、深谷おかみさん会は、会員が商業者限定ではないことが特徴です。現在、会員は33人で、黄色い傘運動のほか、市・大学主催イベントへのボランティアとしての参加や出店、深谷駅前前の清掃活動などを行っています。清掃活動中には、高校生の男の子が「苦勞様です」と声を掛けてくれることもあり、その言葉に、元気をもらっているそうです。

深谷おかみさん会が発足したのは平成8年。深谷商工会議所主催

の「女性セミナー」で、全国商店街おかみさん会のかたが講師を務められた時のことです。「まちは閑散としているし、商店のシャッターは汚い。深谷には、おかみさんがいないの?」という、講師からの痛烈な言葉に触発され、参加者24人が立ち上がりしました。会長の中島昭子さんは、会について、こう語ってくれました。「これからも、故郷・深谷が元気になるお手伝いができたらいいですね。そのためにも、背伸びをしない範囲で、会を続けていきたいと思っています。」



▲黄色いエプロンがトレードマークの「深谷おかみさん会」の皆さん(産業祭出店時)

夫婦道のススメ

病める時も 健やかなる時も



梅澤 邦夫さん (83歳) ツルさん (85歳)

上柴町東にお住まいの梅澤さんご夫妻は、結婚45年目。連れ合いを早くに亡くしたお二人は、同じ境遇から惹かれ合い再婚。ツルさんは、4人の娘を抱える邦夫さんの元へ嫁ぎました。平穩に過ごしていましたが、一昨年、ツルさんが認知症を患い、家事の一切を邦夫さんが行うようになりました。「不安はあった。でも今は、少しでも妻に楽しい思いをさせてあげたい」邦夫さんの言葉には、これまで家族を支えてくれた妻への恩返しのがちが込められています。

ありがとうの手紙



優秀賞 一般の部 ひまわりぐみさんへ



田中 鈴木理美さん

先生のお腹に赤ちゃんができた事を伝えた日から、毎日お腹に手を回して大きさを測ったり、お昼寝時、「赤ちゃんがカゼひいちゃうからね。」とタオルケットを私のお腹にかけてくれたり、みんなが自然と心遣いができる様に成長したのだと嬉しかったよ。出産への不安が増す中、教室のカレンダーの予定日に♥マークを印してくれたね。

出産後、赤ちゃんを抱きしめてくれた姿が微笑ましく、小さなみんなから、先生は優しさと勇気を教えてもらったよ。ありがとう。